

# 一字の巨樹・巨木について

総合学術調査招待講演（つるぎ町教育委員会）

廣澤 政文\*

**要旨：**四国で初めてつるぎ町で2010年5月に開かれた全国巨樹フォーラムには、全国から大勢の人が集まり、小学生の学習や活動の発表、それぞれ活動されている皆さんの事例報告、また情報交換や巨樹ツアー、苔玉作り等のイベントに多くの地元の人達も参加されて大変有意義なフォーラムであった。巨樹マップをもとに巨樹に会いに訪ねていただいた。そして、巨樹に向かって声をかけてほしい。すると巨樹の方から何か声が返ってくる気がしてならない。

**キーワード：**一字，つるぎ町，巨樹王国の由縁，貴重な教材

## 1. はじめに

本論は阿波学会総合学術調査結団式（2010年7月30日）における講演「一字の巨樹・巨木について」をまとめたものである。

## 2. 案内板

一字の入口である土釜に設置されている松の木の巨木に「巨樹王国」と彫った大きくてすぐに目に止まる立派な案内板は当時の行政が作ったものではなく、また働きかけて作られたものでもない。案内板は、一字を誇りに思う女性のグループの皆さんが自発的に自らの「ちから」と熱い思いで作られたものである。

## 3. 企画

1997年（平成9年）、過疎に悩む一字の村に「何か明るい話題と誇れるものを創ろう。…それには一字に昔からある巨木を取り上げよう」と当時の村長立道里見氏が企画を立てられた。

## 4. 調査

全国巨樹・巨木林の会から専門家2人を村に招聘して調査を始めたところ、幹周りが四国一のアカマツ（写真1）、トチノキ、県下のヒノキ、エゾエノキ、カゴノキ、シラガシなどが次々と見つかり、調査日程を延長したところ、全国でも類例がないとの評価の大シャクナゲの群落地（写真3, 4）、四国二位のモミが見つかり、そして圧巻はたまたま通りかかってエノキを計測したところ、何と日本一の太さであった。

## 5. 結果

1998年に当時一字村内の12ヶ所26本を調査した結果、幹周り5m以上が16本、3m以上が10本と群落1ヶ所が確認できた。調査をされたお二人からは、多種多様な巨樹が豊富な一字は巨樹王国であるという高い評価と指摘を受けた。これがもとで一字の巨樹は新聞、全国放送のテレビ、雑誌等の報道機関に何度となく取り上げられ、全国的に一躍有名になり、そ

\* 元旧一字村教育長



写真1 アカマツの調査 (1998年5月15日撮影)



写真2 白井のトチノキ (2010年7月21日撮影)



写真3 大シャクナゲの調査 (1998年5月20日撮影)



写真4 大シャクナゲの花  
5月下旬から6月上旬が見頃 (1998年5月20日撮影)



写真5 ケヤキの調査 (1998年5月16日撮影)

して村の人たちの関心と誇りの意識が高まり、あの案内板へと繋がって行ったのである。このことにより、立道村長の構想は見事に的中した。

## 6. 測定方法

調査の測定は環境省のマニュアルにのっとり幹周り、樹高、枝張り等を計測する。幹周り5m以上が巨樹、3m以上が巨木と呼ぶと定められている。幹周りは山側の地上高1.3mの箇所から池、湖、島の周囲を計る方法で計測する(写真5)。この方法は

県文化財保護審議会の委員さんの計測方法と大きく違う点であり、5 m以上の巨樹になるとかなり数値が変わる場合がある。私にはどの方法が理にかなっているかは判らない。

## 7. 調査の道具

調査に使う道具は、(1)場所を特定するため等高線の入った地形図 (2)20mくらいの巻尺 (3)2 mの測量用ポール (4)樹高を測るワイゼ (5)高度計 (6)方位磁石 (7)木に目印をつけるチョーク (8)証拠写真用のカメラ これらを用意して調査を行う。

## 8. 全国調査

2000年(平成12年)には環境省の巨樹・巨木林の全国調査があり、全国の市町村で実施され、旧一字村は88本の巨樹・巨木を調査して報告した。今後も調査すれば、一字にはまだまだ多数の巨樹・巨木が存在すると思われる。

## 9. 登録

今では一字の巨樹・巨木は96本が環境省のデータベースに登録されていて、その中で幹周り5 m以上の巨樹は32本で、このデータベースはインターネットでいつでも見ることができる(つるぎ町ホームページ: [www.town.tokushima-tsurugi.lg.jp](http://www.town.tokushima-tsurugi.lg.jp))。

## 10. 天然記念物と教材

一字の巨樹は、国指定のエノキ、県指定がアカマツ・トチノキ・モミの3本と町指定がスギ・ヒノキ・エゾエノキ・カゴノキ・シラガシ・ヒガンザクラ・カツラの7本とシャクナゲ群落地が天然記念物となっている。詳しいことはつるぎ町が作成している巨樹マップと巨樹読本(つるぎ町, 2010a, b)ならびに平岡忠夫(1999, 巨樹探検)を参照いただきたい。

特筆すべきことは、これらの巨樹が小学生、中学生、高校生の貴重な教材となったことである。学校の授業のなかで巨樹の種を拾って苗木に育て植付けを行い、観察や学習をして、6年生の女子児童2人が岩手県二戸市の全国子供サミットに出席し、一字の巨樹・巨木について多くの入場者の前で発表した。

また、子どもたちが育てたエノキの苗木等を使い、女性グループによる苔玉づくりの取組み。そのほか、巨樹ツアーを計画したところ案内人を申し出る人もあらわれて、今では「つるぎの達人(つるぎ町の歴史や文化、自然のガイド役)」の皆さんに引き継がれている。

## 11. おすすめ

数多くある巨樹・巨木のなかで私のおすすめは奥大野のアカマツ、白井のトチノキ、大シャクナゲの群落である。

### 1) 奥大野のアカマツ(写真1)

滲み出たような赤色の豊潤な色合い。枝は絡み合う状態で数箇所コブ状になり、樹の持つ自然の造形美を如実に醸し出していて、樹冠は笠状となり、立姿も堂々として実に見事なアカマツである。

### 2) 白井のトチノキ(写真2)

川の左岸の垂直に近い岩盤に生えていて、岩盤にしがみつくような姿で、その異様な迫力には恐ろしいぐらい圧倒される。見る方向によって全然違った形をしており、その迫力といかにも巨樹という表現がぴったりのトチノキである。このトチノキの樹齢は生育条件の良い他のトチノキよりも2倍も3倍もたっていると思われる(別名「白蛇のトチ」と言われている)。

### 3) 大シャクナゲの群落(写真3, 4)

津志嶽の標高1,200mから1,300mのところに他の針葉樹・広葉樹と群落を形成している。広さは7 haに渡っているが、特に3.3haには太さ10cmから90cm級が約3700本自生しており、そのうちバケツぐらいの太さ80cmから90cm級は64本確認されている。樹高は6~7mの高さがある。太さ10cm未満は数え切れない。全国に類例がない大シャクナゲ群落地であると高い評価をされている。なお、群落地へは登山口から約2時間。花の見頃は5月下旬から6月上旬まで。

## 12. 結び

それぞれの魅力を持つ巨樹、そして人々の貴重な宝である巨樹がいつまでも未来に残ってほしいと願っている。

文献

- 平岡忠夫, 1999, 巨樹探検 森の神に会いにゆく. 講談社, 302p.
- つるぎ町, 2010, つるぎ巨樹王国 読本. つるぎ町役場地域創造課, 24p.
- つるぎ町, 2010, つるぎ巨樹王国 出かけよう, 巨樹の里へ. つるぎ町役場地域創造課, 表裏2p.
- つるぎ町ホームページ, [www.town.tokushima-tsurugi.lg.jp](http://www.town.tokushima-tsurugi.lg.jp)
- 

The gigantic trees in Ichiu, Tokushima, Japan.  
HIROSAWA Masafumi,  
Proceedings of Awagakkai, No. 57 (2011), pp. 213 – 216.